スイートプリキュア　闇に蠢く次元の悪

S・H

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
スイートプリキュア　闇に蠢く次元の悪

【Ｎコード】
Ｎ９８８７Ｙ

【作者名】
Ｓ・Ｈ

【あらすじ】
キュアミューズが仲間になり、メフィストも正気に戻り、いつもと変わりなく生活している響達。しかし、そんな彼女達の前にラビリンスのウエスターとサウラーが現れ、その直後マイナーランドでもない謎の敵が現れる。同時刻、その謎の敵はハートキャッチ組、フレッシュ組にも現れた。そして、彼女たちはこの後とてつもない戦いに巻き込まれることになる。

主な登場人物（前書き）

主な登場人物・オリジナルキャラです。

主な登場人物

スイートプリキュア

北条　響　（キュアメロディ）
南野　奏　（キュアリズム）
黒川エレン　（キュアビート）
調辺アコ　（キュアミューズ）
ハミィ
フェアリートーン
クレッシェンドトーン
調辺音吉
メフィスト

ハートキャッチプリキュア

花咲つぼみ　（キュアブロッサム）
来海えりか　（キュアマリン）
明堂院いつき　（キュアサンシャイン）
月影ゆり　（キュアムーンライト）
シフレ
コフレ
ポプリ
花咲薫子　（キュアフラワー）
コッペ

フレッシュプリキュア

桃園ラブ　（キュアピーチ）
蒼乃美希　（キュアベリー）
山吹祈里　（キュアパイン）
東せつな　（キュアパッション）

タルト
シフォン
ウエスター　（西　隼人）
サウラー　（南　瞬）

オリジナルキャラ　（敵）

ギーア　イメージＣＶ　柴田秀勝
本編の黒幕であり、次元の狭間にて空間のねじれによって生まれた悪。大魔神ような姿で性格は冷酷非情。
全ての世界を破壊するべく3人の部下を自身の力で生み出し、破壊活動を行わせている。

リーグ　ＣＶ　池田秀一
ギーアが生み出した部下の一人。貴公子風の青年の姿で常に冷静だが、絆や信じあう心を嫌悪している性格でそれを破壊することを生きがいとしている。空間の剣（つるぎ）を武器として所持しており、それを利用した空間による剣術を使う。また、瞬間移動も扱える。一人称は「私」か「我」

ハンク　ＣＶ　星野充昭
ギーアが生み出した部下の一人。初老の姿をした怪力な体格で、主に攻撃は拳を使い、攻撃力もかなり高い。かなり好戦的で粗野な面もあるが、仲間想いなところもある。一人称は「わし」

カルマ　ＣＶ　下和田裕貴
ギーアが生み出した部下の一人。少年のように無邪気だが、かなり狂気じみた性格かつ激情家で特に顔に傷つけられると激昂する。そんな性格でもハンクと同じく仲間想いな性格。一人称「僕」、激昂した時は「俺」

闇の怪物　ＣＶ　声無し
リーグ、ハンク、カルマによって作り出される怪物。人の姿をしている。
実力はなかなか手強い。また複数いる場合、合体も可能で更に力を増すこともできる。
他にも主人の体内に取り込まれることにより主人の力を一時だけパワーアップさせることも可能。

主な登場人物（後書き）

初めまして。私は小説を書くのは始めてで素人です。
以後、よろしくお願いします。
また、この話はスイートがメインですがハートキャッチとフレッシュをコラボさせた話です。スイートが終了する前までには完結させる予定です。

プロローグ

次元の狭間にて恐ろしい悪が生まれてしまった。
その名は・・・ギーア！

ギーア　「我が名はギーア。
我が部下達よ、多数存在する世界を荒らし破壊するのだ。」
３人　「はっ！！」
ギーア　「さあ、行け（ゆけ）！！」
　３人の部下に命令を下す。

　彼らが行き着いた世界はプリキュアが住んでいる世界だった。

リーグ　「お前達、どうしてついてきた？」
カルマ　「ひひひ、どうでもいいじゃあないか。」
ハンク　「そうだ！わしらはギーア様に生み出された仲間だろう？」
リーグ　「ふん、仲間だの絆だのくだらぬ。
私はそういった物は大嫌いなのだ。お前たちと私が仲間だとは認めぬ。
二度と私の前でその様な事を口にしないでくれ！！」
ハンク「何だと！」
　仲間である事を否定されて怒るハンク。

リーグ「では、私はこの世界を破壊して回る。
貴様達はせいぜい、ちゃちな絆で遊んでいるのだな。」
ハンク「待ちやがれ！！リーグ！」
　カルマとハンクに罵言を言い去っていくリーグを止めようとする

ハンク。

カルマ「じゃあ～、僕も単独で行って来るね～」
　カルマも一人で行こうとする。
ハンク「カルマ！お前もかよ？」
カルマ「だってさ～、こんな世界僕一人でも捻り潰せちゃいそうだから～、
じゃあね！」
　自信満々そうな態度でカルマも後にした。

ハンク「どいつもこいつもふざけやがって！
まあいい。わしも一人で行く。」

3人の部下はバラバラになって行くのでした。
この後、3組のプリキュアと戦う事になるとも知らずに。

スイート　VS　リーグ　その1

ここは加音町、響達は調べの館で調辺アコことキュアミューズが新しく仲間となった事を祝って
歓迎会をしていた。

響「さあ、始めましょう。」
アコ「ちょっと、別にいいわよ！
こんな事しなくて。」
　赤面しながら遠慮したがっているアコ
奏「いいのよ、遠慮しないの」
エレン「そうです、姫様！
私たちはあなたが仲間になった歓迎のためですから。」
アコ「だから姫様はもうやめて、エレン。
普通に名前で呼んでいいから」
エレン「悪かったわ、アコ。」

ハミィ「とにかく始めようニャ」
ドドリー「そうだドド。アコは恥ずかしがってるけど
本当は始めてほしいんだドド！」
アコ「ドドリー！
何私の心を読み取ってんのよ！！」
　ドドリーに本心を読み取られて恥ずかしがっているアコ。
全員「はははは」
　全員に笑われる

響「じゃあ、早く始めようよ。奏のカップケーキも食べたいし。」
奏「そうね、アコが仲間になった歓迎を祝して～」
全員「かんぱ・・・」

全員が乾杯をしようとしたところに突然光が現れ二人の男が現れる。

瞬「ここはどこだ？
別の場所に来たんじゃないか隼人？」
隼人「多分な。
転送ミスだろう。」
アコ「ちょっと何よあんた達？
勝手に入ってきて、人の歓迎会を邪魔しないでよ！」
急に現れた二人に怒る。
瞬「すまない。
だけど教えてくれないか？君たちは？ここはどこなんだ？」
奏「まずはそっちから名乗るのが常識でしょ？」
瞬「そうだね。僕は瞬」
隼人「俺は隼人だ」
響たちに自己紹介をする瞬と隼人

響「私は響」
奏「奏です」
エレン「エレンです」
アコ「アコよ」
ハミィ「そしてハミィはハミニャッ！？」
みんなが自己紹介をしたためハミィも自己紹介しようとしたがエレンに口をおさえられる。
隼人「その猫、今喋らなかったか？」
エレン「いや、気のせいですよ。はは」
響「そんなことより、何の用でここに来たんですか？」
二人にここへ来た理由を聞こうとする。
瞬「ああ、それが・・・」

効果音「ドッカーン」
奏「何、今の音は？」
エレン「もしかして」
響「ネガトーン！」
アコ「行くわよ、みんな！！」
全員調べの館から外へ出て行く。
隼人「どうしたんだ、あいつら？」
瞬「彼女達、もしかしたら・・」
隼人「ん？」

響達は外に出てみると、人の姿をした闇の怪物４体が町で暴れていた。人々は逃げ回っていた。
響「あれってネガトーンなの？」
エレン「いいえ、あれはネガトーンはじゃない。ネガトーンは悪に染まった音符によって作り出される怪物で人々を悲しみにさせるはず。それに、トリオ・ザ・マイナーの姿も見えないし。」
奏「じゃあ、あの怪物はなんなの？」
？「教えてやろう」
全員「誰！？」
現れたのは剣（つるぎ）を持った貴公子のような青年だった。
リーグ「我が名はリーグ。我の生みの親であるギーア様により生み出された忠実なる部下だ。」
響「ギーア？
もしかして、あの怪物を生み出したのもあんたなのね？」
リーグ「そうだ、あれは我が作り出した手駒なのだよ。」

奏「どうして町を人々を襲ったりするの？」
リーグ「どうして？
簡単なこと、それは我が生みの親ギーア様の命令だ。
ギーア様はこの世界を含めすべての世界を破壊しようと画策しておられるのだよ。」
　自身たちのしていることの目的を洗いざらい話してしまう。
エレン「何ですって！？」
アコ「世界を全て破壊？」
リーグ「安心しろ、お前達はここで消してやる。
やれ！！」
　闇の怪物が響達に襲い掛かろうとする。

響「許せない！」
リーグ「何！？」
　響の言葉に反応するリーグ
エレン「そんな理由で」
奏「人々を苦しめたり」
アコ「世界を滅ぼそうだなんて」
４人「絶対に許さない！！」

４人「レッツプレイ！プリキュア・モジュレーション！」
キュアメロディ「爪弾くは荒ぶる調べ！キュアメロディ！」
キュアリズム「爪弾くはたおやかな調べ！キュアリズム！」
キュアビート「爪弾くは魂の調べ！キュアビート！」
キュアミューズ「爪弾くは女神の調べ！キュアミューズ！」
全員「届け、４人の組曲！　スイートプリキュア！」

４人がプリキュアに変身するところをみていた瞬と隼人
瞬「まさか、彼女たちがプリキュアだったのか」
隼人「知ってはいたんだがまさかあいつら以外にもプリキュアがいるとは」

リーグ「プリキュア？お前たちがか？」
　プリキュアに対して頭を傾げながらメロディ達に問う
メロディ「そうよ、私たちは伝説の戦士プリキュア！」
リズム「もう、あなたの好きにはさせない！」
リーグ「ふん、小賢しい。
行け！！」
　４体の闇の怪物をプリキュア達に解き放つ。

メロディ「行くよ！」
リズム・ビート・ミューズ「ええ！」
　プリキュアたちはそれぞれ闇の怪物と激突する
４人「はあああ！！」
リーグ「ふっ、なかなかパワーはあるようだな。
だが、私の作り出した手駒は結構強いぞ。
貴様達に勝てるのかな？」
ビート「確かにこいつ強い」
リズム「でも負けるわけにはいかない」
ミューズ「この世界を守るまでは
絶対に！」
メロディ「そうだよ、私たちはプリキュア。
ここで決めなきゃ女がすたる！」
　全員猛攻で闇の怪物たちを圧倒する。
リーグ「何！？」

メロディ「はっ！」
リズム「はぁ！」
ビート「とう！」
ミューズ「てりゃ！」
　それぞれの重い一撃で闇の怪物を一箇所に追いやる。
リーグ「くそっ！
もうよい、手駒ども！この上は私がやる。」
メロディ「どうやらあいつの出番ね。」
　そんな時、リーグは闇の怪物たちを自身の体に引き寄せ体内に取り込んだのだ。
リーグ「ぬおおおおお！！！」
　闇のオーラが飛び散りながらリーグの体は少し巨大化した
リーグ「行くぞ！」
４人「うん！！」

次回に続く！

スイート　VS　リーグ　その2

加音町に突如現れたリーグと名乗る謎の敵。
リーグは自身が生み出した闇の怪物を取り込んでパワーアップしてプリキュアと激突しようとしている。

リーグ「さあ、行くぞ！」
メロディ・リズム「はああ！！」
メロディとリズムは息の合ったパンチの連発をかましながらもそれを素早い剣のこなしで受け止めるリーグ。
リーグ「ふん！」
リーグは剣を振りかざして斬撃を飛ばしその斬撃がメロディとリズムを命中
メロディ「いや！」
リズム「きゃっ！」
二人は弾き飛ばされた

ビート「よくもやったわね！！」
リーグ「飛んで火にいる夏の虫とは貴様のことだ。」
リーグはさっきの斬撃をビートの向けて飛ばす
ビート「ラブギターロッド！
ビートバリア！！」
リーグの斬撃を防ぐ

リーグ「何！？」
ビート「ビートソニック！！」
リーグ「我も負けぬ！
はあああ！！」

先程の斬撃を複数に飛ばし、ビートの光の矢と一本づつ衝突する。
しかし、残った数本の矢がリーグに襲ってくる。
リーグ「ふん」
余裕な表情で光の矢が激突する寸前にリーグの姿が消えた
ビート「消えた？」
リーグ「ここだぞ！？」
ビートの背後にいた
リーグ「私は瞬間移動も出来るのだよ。」
ビート「くっ！」
ビートは一撃を見舞うも瞬間移動で避けられる。
リーグ「わかったであろう。
私の瞬間移動はこういう風に回避可能なのだ。」
剣を思いっきりビートに叩きつける
ビート「いやああ！！」
ビートも弾き飛ばされてしまう

ミューズ「ビート！許さない！
どんな邪悪な心でも女神の調で包んでみせる！！」
リーグ「お前ごときに何ができるというのだ？」
ミューズ「おいで、シリー！」
シリー「シシー」
ミューズ「シの音符のシャイニングメロディ！」
４人のミューズの幻影と共にリーグを取り囲みサークルを描く。
リーグ「何だ！？これは？」
ミューズ「プリキュア・シャイニングサークル！！」
リーグ「ぐぅ、体が動かぬ。」
リーグはミューズのサークルの力によって動けなくなる。
リーグ「これでは瞬間移動で回避は出来ないな。
だが、我を甘く見ないでもらいたいものだな。

むん！！」

自身のわずかな力で少し鈍らせた。
ミューズ「そんな、私の技を少し鈍らせた？」
リーグ「こんな子供騙しな技で私を倒せると思うでないぞ。」
　リーグはわずかに動ける体で周りに円を剣で描きそこから強力な斬撃を放つ
リーグ「はっ！！」
ミューズ「きゃああ！！」
その斬撃によってミューズの技は破かれ４人の幻影は消滅する。そしてミューズを吹き飛ばされる。

４人「うう・・・」
４人はかなりの痛手を負ったようである。
リーグ「どうした？来ないのか？」
メロディ「くっ、あいつの斬撃なんで強力なの？」
ビート「私達がここまでダメージを負うなんて」
リーグ「当然だ、私の剣は空間を斬る剣。強いのは当然。さあかかってこなければ止めだ。」

ハミィ「プリキュア！
立ってニャ！立つんだニャ！！」
ハミィが駆けつけてくる
リズム「ハミィ・・」
ハミィ「プリキュアがこんな程度へばってちゃダメだニャ。頑張ってニャ！！」
ビート「ハミィのおかげで元気が出てきた。」
ミューズ「うん、私たちプリキュアはどんな時でも、」
メロディ「あきらめない！！」
ハミィの応援で元気を取り戻し立ち上がるメロディ達

リーグ「ふん、くだらぬ！」
メロディ「何ですって！？」
リーグ「私は絆だの信じあう心だのそういう物は大嫌いだ。
お前達プリキュアもそんなくだらない物のかまけているようだな。」
リズム「どうしてあなたはそんなことを言えるの？」
リーグ「分からぬのか？
人の絆は脆い物だ。すぐに崩れ去ってしまうほどにな。」
ビート「そんなことはない。
確かにあなたの言うとおり絆は何かのきっかけであっけなく崩れてしまう。
でも、絆はまた取り戻すこともできる。何でも。」
リーグ「また取り戻すだと？
笑わせるな！結局はまた崩れてしまうだけの繰り返しではないか。
ならばそんな物なければよい！
それが分からねば、この私がふち壊してやらねばなるまいな！！」
プリキュア達の言う事を全く聞き入れないリーグは瞬間移動でプリキュアの近くに回りこむ。
ミューズ「いつの間に！？」
リーグ「はっ！！」
剣を地面の突き刺し地面から強力な衝撃波が放出される
４人「きゃああ」
その衝撃波に巻き込まれる４人。

ハミィ「みんな～
ニャッ！」
ハミィの前に立ちふさがるリーグ
リーグ「ふん、まずはお前からだ」
ハミィ「ニャニャ～！」
ハミィを始末しようとするリーグ

ビート「ハミィ！！」
メロディ「やめてー！
ハミィに手を出さないで！！」
リーグ「黙っていろ！
次はお前達だ。」
ハミィ「ハニャー！！」
リーグ「これで終わりだ！！」
ハミィに剣を振りかざそうとしたその瞬間
隼人「うりゃあ」
間一髪のところでハミィを抱え救出した
リーグ「！」
隼人「大丈夫か？」
ハミィ「ありがとニャッ！」
隼人「やっぱりお前は喋る猫だったのか。
安心しろ、後は俺たちが」
ハミィを安全なところに避難させ瞬とともにリーグの前に出る

リーグ「何だ、お前たちは？
我の邪魔をするのであれば容赦しないぞ！？」
リズム「逃げてください！早く！」
二人に逃げるように説得するリズム
瞬「大丈夫だ。
僕たちに任せてくれ。」
隼人「ああ」
瞬・隼人「スイッチ・オーバー！」
一般人だった二人の姿が白衣の姿に変わった
ウエスター「我が名はウエスター」
サウラー「我が名はサウラー」
メロディ「一体、何なの？あの二人？」
サウラー「我らはラビリンスに生まれし者」

ミューズ「ラビリンス？」
ウエスター「もうこれ以上貴様のすきにはさせん！」
リーグ「邪魔者は消すだけだ」

次回へ続く

スイート　VS　リーグ　その3

突如現れたリーグと名乗る敵、その桁違いの力に為すすべもなく倒れるスイートプリキュア。
そんな彼女たちを助けるかのように現れたラビリンスのウエスター、サウラーがリーグの前に立ち塞がる。

リーグ「そこをどいてもらおうか？」
サウラー「その前に、さっき彼女達ではなくそこの子猫を狙った？何故だ！」
　先ほど、ハミィを始末しようとした事を咎めるかのように問い詰める。
リーグ「知れたこと。
私は絆など友情といった物が嫌いだからだ。
それ故、私はそれを破壊することを生き甲斐としているのだ。」
ウエスター「何だと！そんな事でこの喋る猫を狙ったというのか？」
リーグ「だとしたらどうする？」
サウラー「何てやつだ。」
ウエスター「何故貴様には分からんのだ？
絆や友情、人としての心が！」
リーグ「人としての心？何とでもいうがよい。
お前達もプリキュアたちもろとも消し去ってくれる！」
　リーグは二人に襲いかかろうとする

サウラー「来るぞ！」
リーグ「はっ！！」
　剣から斬撃を飛ばす
ビート「危ない！」

ウエスター・サウラー「はああ！！」
　二人は互いの片手を出し合いバリアを展開する。
そしてバリアで受け止めた斬撃を跳ね返す。
リーグ「何？」
　すかさず瞬間移動で避けるリーグ
ウエスター「どこへ行きやがった？」
　リーグはサウラーの後ろに回りこんだ
サウラー「！」
　サウラーはすぐに感づき回し蹴りのカウンターを見舞わせそれを剣で受け止めるリーグ
リーグ「ぐうう」
サウラー「くっ」
　そこからリーグの腹に強力な掌底を喰らわす
サウラー「はっ」
リーグ「ぐは！」
　いきなりの攻撃にふらつくリーグに横からウエスターのパンチが横腹に炸裂する。
ウエスター「おりゃあ！！」
リーグ「ぬおおお！！」
　そのまま吹き飛ばされ壁に激突するリーグ。
しかしその直後、瞬間移動でウエスターの目の前に現れ剣を振りかざす。
ウエスター「しまった！」
リーグ「もう遅い！」
　ウエスターに迫る剣を間一髪でサウラーが拳で弾く
リーグ「おのれ！」
　そこからウエスター、サウラーの力を合わせたパンチが炸裂する。
リーグ「うおおお！！」
　また吹き飛ばされる

メロディ「すごいし強い！」
リズム「あの二人の息も合ってるわ」
　二人の戦い方に歓心しているメロディとリズム
ビート「私たちものんびりと寝てられないわ」
ミューズ「そうね」
　前のダメージを背負いながらも立ち上がるプリキュア。

リーグ「うっ」
　ふらつきながらも立ち上がるリーグ。
ウエスター「まだ立てるか」
リーグ「油断していた。
まさかこの私とやり合えるほど強者がいたとはな」

メロディ「待ちなさい！」
サウラー「お前達、大丈夫なのか？」
ミューズ「大丈夫、私たちならまだ戦える！」
ウエスター「たいしたもんだな、お前達。
それこそ俺たちの知っているプリキュアだ。」
ビート「どうしてあなたたちがプリキュアを？」
リーグ「何故だ。なぜ立ち上がれる？
お前達のダメージはとうに限界を超えていたはず。
なのに何故？」
リズム「あなたには分からないのよ！
私たちの本当の力、本当の想いが」
リーグ「力、想いだと」
ビート「私たちプリキュアはどんなときでもあきらめない。」
メロディ「人々の笑顔、幸せ、友情を守るまでは絶対に負けるわけにはいかないの！
それこそがプリキュアの絆なのよ！」
リーグ「ふん、それがくだらぬというのがまだわからぬか？

まあよい、どのみち貴様らは全員地獄へ行くことになるのだからな！」
メロディ「人としての心がないあなたに見せてあげる、私たちの絆の力を。
みんな行くよ！！」

４人「出でよ、全ての音の源よ！」

メロディ「届けましょう、」
４人「希望のシンフォニー！」

４人「プリキュア・スイートセッション・アンサンブル・クレッシェンド！！」
ヒーリングチェストから召還したクレッシェンドトーンと一体化して金色の光の炎となりリーグに突撃する。
ウエスター・サウラー「行けーーー！！」
リーグ「くっ、（なんという強大な力だ）。
く、来るな！」
斬撃を彼女たちめがけ数発飛ばすが強力な力ゆえに通用しない
リーグ「何だと、通用しない？」
４人「受けてみなさい、私たちの絆の力を！！」

リーグ「おのれ、こんなところでくたばるわけにはゆかぬ！」
４人の合体技が炸裂する前に瞬間移動で姿を消す
クレッシェンドトーン「消えた！」
後一歩のところで逃げられやむなく合体技を中止した。

リーグはメロディ達の少し離れたところの空中に逃げていた。
リーグ「はあはあ、おのれプリキュアども。

しかし、奴ら強さはとんでもない。もしかすると我々の目的の邪魔になり得るやもしれぬ。
このことはギーア様に報告しなくては」
　瞬間移動でまた姿を消す

メロディ「そんな、逃げられちゃうなんて」
ビート「後一歩だったのに」
ハミィ「でも、ハミィはみんなが無事でよかったニャ！」
　能天気なハミィは４人が無事だったことに喜ぶ。
ビート「もう、ハミィったら人の気も知らないで」
ミューズ「でも、あのリーグは何者だったの？」
リズム「さあね、よく分からないことだらけだけど
あなたたちに聞きたいことは山ほどあるわ。」
　リズムはウエスターサウラーに目をむける
ウエスター・サウラー「あっ！」
リズム「ハミィを助けてくれたこと私たちのために戦ってくれたことは感謝するけど
あなたたちは何者なの？何でプリキュアを知っているのかここへ来た理由、じっくりと聞かせてもらうわよ。」
メロディ「まあまあ、そんなに問い詰めなくても」
サウラー「そうだね、君たちに教えないとね。」
ウエスター「俺たちがここへ来た目的を」

次回へ続く

スイート　ＶＳ　リーグ　その３（後書き）

次の話の内容はフレッシュプリキュアです。

フレッシュ　VS　ハンク　その1

キュアメロディ達は謎の敵リーグと戦っていたのだが、実は同時刻に桃園ラブことキュアピーチたちの住処であるクローバータウンストリートでも謎の敵の襲撃を受けていたのだった。

ラブ「あ～、カオルちゃんのドーナツおいしかったよ」
美希「いつも食べてるでしょ？ドーナツは」
祈里「もしかして、せつなちゃんとは久しぶりに一緒だから？」
ラブ「大正解～！」
　実はせつなはラビリンスからラブ達の世界に来ており、
ラブ達と久々に再開してお出掛けをしている途中なのである。
せつな「もう、ラブったらはしゃぎすぎなんだから。
でもあなた達と会うのはあのブラックホールの事件以来ね。」
タルト「そうや、あん時はピーチはんたちとは
もう二度と会えんようになってまうかと思ったで。」
シフォン「プリップ」
美希「確かに、いつどんな悪が
現れるか分からないしね。」
ラブ「まあ、どんな敵が現れてもあたしたちが倒しちゃえばいいんだよ！」
　自信満々と張り切るラブ。
祈里「もう、そんな縁起でもないこと言って。
もし本当に来たらどうするの？」
せつな「あれ、あの人何してるのかしら？」
　あたりを見渡しているおばあさんを気にするせつな。
美希「見かけない人ね。道に迷ったんじゃない？」
ラブ「聞いてみよう！」

ラブは即座におばあさんに話しかける
祈里「あっ、ラブちゃん！」
美希「ラブって困っている人を見るとほっとけないタイプだからね。
」

ラブ「おばあさん！」
おばあさん「うん？」
ラブ「道に迷ったんですか？」
おばあさん「ええ、私はよその街から来てこの街に来るのは初めてなの。」
せつな「どこへ行きたいんですか？」
おばあさん「お花屋さん」
ラブ「じゃあ、あたしたちが案内してあげますよ。
ついて来てください。」

効果音「ズドーン」

祈里「何？」
せつな「あそこで何かあったみたいよ」
ラブ「おばあさん、ちょっと悪いんですけどここで待っててください。
後で案内しますから！」
美希「みんな行くわよ！」
全員大きな音がしたところへ向かって走っていく。

おばあさん「もしかしてあの子たちは」

美希「何、あれ？」
人の姿をした闇の怪物が2体暴れまわっていた
人（男）「うわー」

人（女）「きゃー」
ラブ「みんな、変身だよ！」
４人「チェインジ・プリキュア・ビートアップ！」

キュアピーチ「ピンクのハートは愛あるしるし！もぎたてフレッシュ、キュアピーチ！」
キュアベリー「ブルーのハートは希望のしるし！つみたてフレッシュ、キュアベリー！」
キュアパイン「イエローハートは祈りのしるし！とれたてフレッシュ、キュアパイン！」
キュアパッション「真っ赤なハートは幸せの証！熟れたてフレッシュ、キュアパッション！」

ピーチ「レッツ、」
４人「プリキュア！」

パッション「一体何なの？
この怪物は？」
？「おい、お譲ちゃんたちよ！」
４人「誰！？」
ハンク「わしゃギーア様によって生み出されたハンクってんだ。
以後よろしくな」
　ハンクと名乗る初老の姿をした怪力男が４人の前に現れる。
ピーチ「ギーア？
この騒ぎはあんたの仕業なの？」
ハンク「そうだとも。
さあ、分かったら怪我しねえうちにさっさと帰んな」
ベリー「何ですって？」

パッション「誰が恐怖で苦しむ人々を放っておいて帰るものですか！」
ハンク「ふむ、面白い！
ならばこのわしがおめえらの相手をしてやろう」
闇の怪物2体がハンクの体に入り込み体が一回り大きくなる。

パイン「一体、何なの？」
ピーチ「なんだかよくわかんないけど、
行くよ！」

ピーチとパッションがハンクの真正面に行き、パンチを連続を繰り出す。
ピーチ&パッション「はああ！！」
ハンクは余裕な表情で二人のパンチを受け止め続ける。
ハンク「ほう、なかなかのパワーだな。
なかなか戦い慣れてる。」
ピーチ&パッション「余計なお世話よ！」
二人はハンクの顔面に強烈なパンチを浴びせる
ハンク「だが、その程度ではこのわしは倒せねえぜ。」
ピーチ「そんな、効いてない！？」
ハンク「ぬおお！！」
ハンクはピーチに反撃のパンチを与える。
ピーチ「うあーー！！」
ピーチは激しく飛ばされる。
パッション「ピーチ！」
ハンク「余所見をするとは随分と余裕じゃねえか」
パッションにもアッパーカットを見舞う
パッション「きゃぁぁ！！」
空中に吹き飛ばされ、地面に落下する

ベリー「はあー！」
パイン「やあー！」
　ベリーとパインが左右に攻撃を仕掛けるがハンクはそれを受け止める。
ハンク「ふっ」
ベリー&パイン「うう！」
　受け止められながらも力を加えるがハンクは二人をそのまま投げ飛ばす。

ハンク「！」
　しかし二人は体勢を立て直し
ベリー&パイン「ダブル・プリキュア・キック！！」
ハンク「ぐっ！」
　とっさに両腕のカードで防ぎながらよろける。
ベリー「効いた？」
ハンク「効くわけねえだろ！！」
　ベリーに対し反撃として猛スピードの突進を喰らわす。
ベリー「うああ！！」
　ベリーは思いっきり吹っ飛ぶ
パイン「ベリー！
あの体格で、なんてスピードなの。」
　ハンクのスピードに驚くパインにも猛スピードのタックルを与える。
ハンク「せりゃあ！」
パイン「いやぁぁ！！」
　パインも吹き飛ばされる

　ハンクの驚異のパワーの前に平伏されるピーチ達。
ピーチ「あいつ、強すぎる。」
パッション「あの強さ尋常じゃないわ」

ハンク「何だ、もう終わりかい？
じゃあ、止めといくか。」
　止めを刺そうとするハンク
？「お待ちなさい！」

　聖なる光に輝くプリキュアと思われる人物がいた。
ハンク「何だあ？」
ベリー「まさかプリキュアなの？」
パイン「でも、誰なの？」
？「私は・・・
聖なる光に輝く一輪の花　キュアフラワー！！」

次回へ続く！

フレッシュ　VS　ハンク　その2

久々にせつなと一緒にクローバータウンストリートでお出掛けをしているラブ達だが、その最中に現れた謎の敵ハンク。プリキュアとなりそのハンクに立ち向かうが強力な強さに圧倒されてしまう。
その時、現れたプリキュア　キュアフラワーが彼女たちを助けるべく現れたのだった。

ハンク「ほう、プリキュアはまだいたのか。
お前も倒してやるぜ！」
　真っ向からキュアフラワーに突撃し拳を叩き込む
ハンク「せりゃああ！！」
キュアフラワー「はっ！」
　フラワーは球状のバリアを全身に張りハンクの正拳を防ぐ
ハンク「何？」

フラワー「プリキュア・フラワーカーニバル！！」
　４枚の花冠がハンクの周りを取り囲み、花冠から分身が現れ攻撃をする。
そしてフラワーの分身たちがハンクの体内に入り込み、先ほど取り込んだ闇の怪物に猛攻を与える。
ハンク「うおおお！！やめろーー！！！！」
　フラワーの攻撃に息をあげながら膝をつく。その直後、ハンクの体が元のサイズに戻る。
ピーチ「元に戻った！？」
ハンク「くそう、わしの体に取り込ませた闇の怪物が倒されたせいで元に戻りやがった！
てめえだけは許さん！許さねえぞ！！」

元に戻った体でフラワーに襲いかかるハンク。
だが、その直後

ハンク「ぐあああ！！」
バラの花びらが吹雪がハンクを包み込み連続の猛攻を受ける。
パッション「何あの人？」
ベリー「あの人イケメンね。」
ハンクに猛攻を与えたのはメガネをかけたイケメンの青年だった。
フラワー「ありがとう、コッペ。
もう私たちができるのはここまで。さあ、早く決めなさい！」
パイン「ありがとうございます」
さっきまでやられていたプリキュアたちは立ち上がる。

ピーチ「ハンク！人々を苦しめて、あんただけは絶対に許さないんだから！！」
ハンク「くっ」

ピーチ「届け！愛のメロディ！
キュアスティック　ピーチロッド！」
ベリー「響け！希望のリズム！
キュアスティック　ベリーソード！」
パイン「癒せ！祈りのハーモニー！
キュアスティック　パインフルート！」
パッション「歌え！幸せのラプソディ！パッションハープ」

ピーチ・ベリー・パイン「悪いの悪いの飛んでいけ！！」
ピーチ「プリキュア・ラブサンシャイン！」
ベリー「プリキュア・エスポワールシャワー！」
パイン「プリキュア・ヒーリングプレアー！」
ピーチ・ベリー・パイン「フレッシュ！！」

パッション「吹き荒れよ！幸せの嵐！
プリキュア・パピネス・ハリケーン！！」
彼女達４人の必殺技がハンクに襲いかかろうとしている。
ハンク「来るか、ならば受けてやる！！」
４人「行けーーー！！！」

４人の必殺技が見事ハンクに命中した
４人「はあああああ！！」
ハンク「ぐおおおおお！！」

パイン「やったの？」
ピーチ「見事に決まったんだからたぶん・・・」
パッション「いや、まだよ！」
ボロボロになりながらも余裕の表情で立っているハンク。
ハンク「ふん」
ベリー「そんな、あたしたちの攻撃を受けてまだ立っていられるなんて！」
ハンク「わしはこの程度じゃまだまだくたばらねえのさ。
ぐっ！
だがよ、少しは効いたようだぜ。」
ピーチ「みんな、また行くよ！」
ピーチはまたハンクに戦いを挑もうとする
ハンク「勝負はお預けだ！
今度は必ず勝ってやる！」
深手を負いながら撤退したいくハンク

ピーチ「行っちゃった」
タルト「ピーチはん達！」
タルトとシフォンがやってくる

ベリー「タルト、シフォン！」
タルト「あんさんら、無事なんか。
よかったで。」
パイン「でも、あのハンクっていう敵は何だったの？」
パッション「よくはわからないわ。
とにかく、あのキュアフラワーという人には感謝しないとね。」

４人「ありがとうございます！」
タルト「あんさんには礼を言うで。
けど、なんであんさんもプリキュアやねん？」
フラワー「とにかく、元の姿に戻るわね。」
　フラワーは変身を解き人間の姿に戻る。
その姿は先ほどのおばあさんだった
ピーチ「ああ～、あなたはさっきのおばあさん？」
薫子「そうよ、私は花咲薫子というの」
ベリー「花咲？
どこかで聞いたような？」
パイン「あっ！
もしかしてつぼみちゃんじゃないの？」
薫子「そう私はつぼみの祖母よ」
パッション「でも、どうしておばあさんがプリキュアを？」
フラワー「実は私は５０年前からプリキュアをやってたの。」
全員「ええ～～～」

次回へ続く！

フレッシュ　ＶＳ　ハンク　その２（後書き）

次回はハートキャッチです。

ハートキャッチ　VS　カルマ　その1

ここは希望ヶ花市、つぼみ、えりか、いつきは学校帰りの途中だった。
ここでも、同じ事態が起っていたのだ。

えりか「で、この後何して遊ぼうか？」
いつき「ん～、薫子さんの植物園にでも行って考えない？」
つぼみ「あっ！
おばあちゃんは今日よその町に行くそうで、いないと思います。」
えりか「え～、それじゃあ話し合えないじゃん」

　その直後、謎の少年がつぼみ達の前に現れる
つぼみ「何ですか？」
カルマ「いきなり、現れてごめんね。
自己紹介をするよ。僕はカルマって言うんだ。」
えりか「何よあんた！
いきなり現れて一体何の用なの？」
　いきなり現れて怒るえりか
カルマ「だから、ごめんって言ってるじゃないか～
単刀直入で言うけど、僕はこの世界を破壊するために来たんだよ。」
3人「！？」
　いきなりの発言に驚く3人
カルマ「それは僕の生みの親であるギーア様の命令なんでね。
まずは君たちを消すとしようか。
な～に、心配ないさ。苦しまないように消してあげるからさ～」
いつき「ギーアって誰？」

えりか「てか、これやばいじゃん！
コフレたちがいないからあたしたちプリキュアになれないじゃん！」
　今の危険な状況でうろたえる
つぼみ「うろたえないで下さい！
何とかなると思います。たぶん・・・」
カルマ「何か言い残したいことがあるようだね
消される前に残す言葉があったら今のうちだよ～」

シフレ「つぼみーー」
コフレ「えりかー」
ポプリ「いちゅき！」
　やっとというところでシフレ達が現れる
えりか「遅い！！」
いつき「よかった、本当に」
つぼみ「では、皆さん行きますよ！」
カルマ「！？」

シフレ・コフレ・ポプリ「プリキュアの種、いくです！」

3人「プリキュア！　オープン・マイ・ハート」

キュアブロッサム「大地に咲く一輪の花、キュアブロッサム！」
キュアマリン「海風に揺れる一輪の花、キュアマリン！」
キュアサンシャイン「陽の光浴びる一輪の花、キュアサンシャイン！」

3人「ハートキャッチ・プリキュア！！」

カルマ「プリキュアだって？
なんだかよくわかんないけど、すぐに楽にしてあげる！！」
　猛スピードで３人に襲い掛かろうとする
ブロッサム「はっ！」
　襲い掛かろうとしたが、ブロッサムに受け止められる
カルマ「なっ！」
ブロッサム「もうこれ以上あなたのすきにはさせません！
ブロッサムインパクト！！」

カルマ「ぐああ！」
　そのまま吹き飛ばされる
カルマ「この僕にダメージを？
ただの人間じゃないようだね。こりゃ時間がかかるかも」

ブロッサム「行きましょう！！」
マリン「やるっしゅ！」
　３人は一斉でカルマのもとに走っていく
カルマ「ひひひ、見せてあげるよ、僕の実力を！」

マリン「はっ！はっ！はっ！」
カルマ「ひひ、何だよそのパンチ当たりもしないよ」
　マリンの連続パンチを難なく余裕な表情で避け続ける
マリン「何なのこいつ、当たらない！」

ブロッサム「はああ！！」
　ブロッサムが横から蹴りを見舞おうとする
カルマ「ひひひ！」

それを素早い身のこなしで空中にジャンプして避ける
カルマ「お返しだよ！」
　そのまま空中でカルマの両腕からビームが放たれる
マリン「うあ！」
ブロッサム「いやああ！！」
　そのビームが2人に直撃する

サンシャイン「ブロッサム、マリン！！」
カルマ「次は君だよ」
　また両腕からビームをサンシャインめがけ発射する
サンシャイン「サンフラワー・イージス！！」
　カルマのビームはサンシャインの盾によって跳ね返される
カルマ「くっ！」
　すかさず避け、地面に着地する

カルマ「さすがだね。いい盾じゃないか。
でも、僕のビームはこんなこともできる」
　再度ビームは発射する
サンシャイン「何度やっても無駄よ！！」
　サンシャインは盾をかまえてカルマのビームを受けきろうとする。
しかし、ビームは盾に当たる直前に軌道が変わり盾を超え、左右からサンシャインに襲い掛かる
サンシャイン「あっ、うああ！！」
カルマ「僕のビームは僕の意思で軌道を変えられるんだ。」

ブロッサム・マリン・サンシャイン「くっ！」
　ダメージを負いながらも立ち上がる3人
カルマ「ひひ、まだ立てるのかい。
そうこなくっちゃ」
ブロッサム「なめるのもいい加減にしてください！！」

カルマの真正面に立ち向かうブロッサム
カルマ「ひひひ！」
ブロッサムにビームを放つ
ブロッサム「同じ手は食らいません！
はああ！！」
ビームを避けカルマの真正面にたどりつきパンチを連続でかます
が、
それを素早く避けるカルマ
カルマ「当たらないじゃないか。
僕のスピードの前じゃ歯が立たないんだよ」
ブロッサム「バカにしないでください！！
ブロッサム・シャワー！！！！」

カルマ「おっと！」
ブロッサムの攻撃を避けるが、その左右にマリンとサンシャインが
カルマ「！？」
マリン「油断したわね」
サンシャイン「行くわよ！」

マリン「マリン・シュート！」
サンシャイン「サンシャイン・フラッシュ！！」

左右から2人の攻撃がカルマに襲ってくる
カルマ「くう！」
腕を左右に伸ばしてビームを発射し攻撃を撃ち合う。
しかし、ビームは打ち破られ攻撃がカルマに直撃する
カルマ「ぐあああ！！」
マリン「どうだ！？」
カルマ「今のはちょっと効いたよ」

カルマの表情がさっきより変わった
ブロッサム「何なんですか？」

カルマ「あんまり調子に乗るんじゃねえぞ！！
クソ野郎どもがああ！！！」
先ほどの攻撃で表情が怒り顔に変わり、口調が荒っぽくなった。
サンシャイン「あいつ、怒ったみたい」
マリン「これって、ちょっとやばいんじゃない？」
カルマ「てめえら絶対に許さねえ。
お前ら3人、地獄に送ってやらあ！！」
怒り狂ったカルマは3人に突っ込んできた
カルマ「おりゃあ！！」
マリン「あーー！」
まずはマリンをタックルで吹き飛ばした
ブロッサム「マリン！！
よくも！

集まれ！　花のパワー！　ブロッサムタクト！

花よ輝け！　プリキュア・ピンクフォルテウェイブ！！」

至近距離からフォルテウェイブをカルマに目がけて発射する
カルマ「ふん！」
だが、驚異的な速さでそれを避けきってしまう
ブロッサム「そんな！フォルテウェイブが避けられるなんて！！」
カルマ「気を取られてんじゃねえ！」
ブロッサム「はっ！」
ブロッサムの腹部に両手を構え、そこからビームを発射する
ブロッサム「ああーー！！」

サンシャイン「ブロッサム！」
カルマ「ほう、人の心配するとは余裕だな」
　サンシャインの前方に突如として現れる
サンシャイン「（こいつ、いつの間に！）」
　咄嗟にパンチをかますも避けられ、その直後に右足上段の蹴りをかました
カルマ「ぐっ！」
サンシャイン「どうだ！」
カルマ「何だってんだ、そんな蹴りは」
　蹴りは見事に命中したが全く通じていない
サンシャイン「効いてない！？」
カルマ「本当の蹴りってのは
こうやんだよ！！」
　反撃の蹴りを思いっきりサンシャインに炸裂させた
サンシャイン「きゃぁぁ！！」
　サンシャインも吹き飛ばされてしまう

3人「うぅぅ」
　カルマの怒りのパワーの前になすすべもなく圧倒される3人
カルマ「どうだ、思い知ったか
この俺の実力はよお！強えだろーが」
サンシャイン「あいつ、怒っただけであんな力を」
マリン「ほら、言わんこっちゃない」
カルマ「おらおら、まだのびるにゃ早いぜ
もっとじっくり料理してやる」
　更に痛めつけようと3人の側に歩み寄る
ブロッサム「もう動けません！」

？「待ちなさい！」
カルマ「あぁ～」
マリン「あれは！」
３人「ゆりさん！！」
３人のピンチに駆けつけたのはゆりだった
カルマ「何だ？おめーは？」
ゆり「私もあの娘たちと同じプリキュア！！」
ゆり「プリキュア！　オープン・マイ・ハート」
キュアムーンライト「月光に冴える一輪の花、キュアムーンライト！」
次回に続く

ハートキャッチ　ＶＳ　カルマ　その１（後書き）

ずいぶんと遅いですが、あけましておめでとうございます。
何かと忙しくて更新が遅れました。

今年もがんばってこの作品を仕上げていくのでよろしくお願いします。

ハートキャッチ　VS　カルマ　その2

希望ヶ花市にて、突如現れた謎の少年カルマはブロッサム達に襲い掛かり戦うことになった。
しかし、カルマの怒りの力の前に圧倒されてしまいピンチとなった直後に彼女たちの仲間の一人キュアムーンライトが駆けつけてきた。

カルマ「何だよ、お前もプリキュアか？」
ムーンライト「そうよ、私はあの娘たちの仲間よ」
ブロッサム「ムーンライト・・」
カルマ「だったら、邪魔すんなよ
せっかくこいつらをいたぶってやれたのによ。」
ムーンライト「あなたには倒せない、あの娘たちそして私にも」
カルマ「何を！？倒せねえだぁ？」
倒せないという発言に反発するように言ってくる
ムーンライト「私たちプリキュアは愛で戦っているのよ。
だから、怒りだけで戦う今のあなたに勝ち目はない！！」

カルマ「ぬかしてんじゃねえ！
そんなもん戦って見なけりゃわからねえじゃねえか！！」
ムーンライトの発言に怒り狂って真っ向から突撃する
ムーンライト「はっ！」
カルマの攻撃を片手で受け止め、そこから反撃のパンチを2発を見舞わせる
カルマ「ひひ」
その攻撃を容易く避けるカルマ
ムーンライト「甘いわね」

カルマ「！」
カルマは次の攻撃が来ることに気づかず咄嗟にカードする
カルマ「ぐあああ！」
カードをするも、ムーンライトの蹴りによって吹き飛ばされる。
更に吹き飛ばされるカルマの上空から足を構えダイブする
カルマ「（こいつ！）」
ムーンライト「はああ！！」
そのままカルマの腹にぶつかり地面にたたきつける
カルマ「ぬあああ！！」

カルマ「うおお！いでええ！！」
ムーンライトの猛攻の前に悶え苦しむカルマ

カルマ「くそったれが！！！」
再び立ち上がり、怒りを露にしてムーンライトに襲い掛かる
ムーンライト「・・・」
しかし、無言のまま攻撃は避けられる
カルマ「！？」
そこから振り返るとムーンライトの掌がカルマの顔面に向けられていた
ムーンライト「ムーンライト・シルバーインパクト！！」
カルマ「ぎゃあああ！！！」
銀色のエネルギー光波がカルマの顔に炸裂し吹き飛ばされ、地面に倒れこむ
カルマ「ぐあああ！！
顔が顔が！！」
顔面に渾身の一撃が炸裂したことで苦しむカルマ

マリン「やっぱ、ムーンライトは強いや」

ブロッサム「ありがとうございます、ムーンライト」
先ほど倒れていた3人がムーンライトの側に来ていた
ムーンライト「あなたたち、もういいの？」
サンシャイン「大丈夫。私たちならまだ戦えます」

カルマ「くそう」
4人「！！」
カルマは顔を抑えながらも立ち上がる
カルマ「てめえ！よくも俺の顔を傷つけやがったな！
俺の顔を傷つけた奴は絶対にただじゃおかねえ！！」
ムーンライト「くっ！」
まだ立ち上がるカルマに対して体勢を構えるが、その前にブロッサムが手を出す
ブロッサム「大丈夫です、後を私たちに」

サンシャイン「集まれ！　花のパワー！　シャイニータンバリン！！
花よ舞い踊れ！　プリキュア・ゴールドフォルテバースト！！」

ブロッサム・マリン「はっ！
集まれ、二つの花の力よ！　プリキュア・フローラルパワー・フォルティシモ！！」

サンシャイン「プリキュア・シャイニング！」
ブロッサム・マリン「フォルティシモ！！」

ブロッサムとマリンが金色の姿を纏い、カルマに突撃しようとする
カルマ「はっ！そんなもん避けてや・・
ぐうっ！（くそ、さっきのダメージが・・・）」
3人の合体技を避けようとするが先ほどのダメージが祟って動けなくなる
カルマ「もう、終わりか？」
そんな時彼の前に突如リーグが現れる
カルマ「リーグてめえ！！」
リーグ「勘違いするな、ギーア様のご命令だ。助けたわけではない。ゆくぞ！」
カルマ「ちっ！！」
リーグの瞬間移動で2人とも姿を消す
ブロッサム・マリン「消えた！？」
2人はサンシャインとムーンライトの近くに戻り、合体技を解除する
マリン「そんな、もう少しだったのに逃げられちゃったじゃない！！」
逃げられたことに足踏みを連打するマリン
ブロッサム「さっき現れた人は一体誰なんでしょう？」
ムーンライト「よく分からないけれど、きっと奴の仲間ね」

シフレ・コフレ「プリキュア！！」
ポプリ「サンシャイン！！」
プリキュアたちのもとに駆け寄ってくる
ポプリ「サンシャイン、よく頑張ったでしゅ」
サンシャインの胸に甘えるように抱かれる
サンシャイン「うん」
シフレ「ブロッサムも無事でよかったです」
ブロッサム「はい！」
コフレ「マリンもよかったですううう」

マリンに両方の頬を引っ張られるコフレ
マリン「よくないわよ、せっかくのところで逃げられちゃったんだよ！」
ほぼ八つ当たりでコフレに当たるマリン

ムーンライト「はあ」
やれやれのような表情であきれ果てる
ムーンライト「とにかく、これからどうするのか考えましょ。」
サンシャイン「確かに」
ブロッサム「はい、そうしましょう！」

次回に続く

これからの話し合い

ところ変わって、ここは調べの館。
スイート組はリーグとの戦いを終えてウエスター、サウラーから事情を聞いていた。

サウラー「僕たちがこの世界に来たのは他でもない。
君たちと同じ４人のプリキュアに会いに来たんだ。」
響「私たちと同じプリキュア？
誰なの？」
ウエスター「キュアピーチたちだ。
この世界では桃園ラブというが」
奏「知ってるわ。でもどうしてラブ達と知り合いなの？」
サウラー「彼女達と僕たちはかつて敵同士だった」
ウエスター「当時俺たちの故郷ラビリンスは総統メビウスによって俺達は操られていた。
あいつらの仲間の一人キュアパッションことイースもそうだった。」
エレン「・・・」

ウエスター「だが、俺たちはキュアピーチ達に人として心を教えられ目が覚めた。
そしてあいつらと共闘しメビウスに勝った。今ではラビリンスは平和になっている。」
アコ「そうなの、大体のことは分かったわ。
でも、そのあんた達が何の用で何のためにここへ来たのよ？」
サウラー「先日ラビリンスでどこかの空間にとんでもない捩れが見

たかった。
何か前兆かもしれないと思い彼女達に会うためにこの世界へ来ることにした。」
ウエスター「それがその影響か転送ミスでここへ来るはめになったんだ。」

響「まあ、言いたいことは分かったよ」
奏「やっぱりあのリーグってやつもその影響に繋がりそうね。
これからも事もあるし、ラブたちのとこへ行きましょ」
サウラー「決まりだね。」

ウエスター「これは何なんだ？」
　近くにあったカップケーキに興味を示すウエスター
ハミィ「それは奏のカップケーキニャ。
ハミィたちはアコの歓迎会をしてたんだけどさっきの騒ぎでそれどころじゃなくなったんだニャ。」
ウエスター「うまいのか？」
ハミィ「もちろんニャ！
さっきのお礼もあるから食べていいニャ」
ウエスター「モグモグパクパク
あぁ～うまい！」
　カップケーキを食べてとろける表情になる
サウラー「全く」
　あきれ果てるサウラー

エレン「ねえ」
ウエスター「うん？どうした？」
エレン「さっきの話の事なんだけど」
　ウエスターの先ほどの話のことを聞いてくるエレン
ウエスター「イースのことか。

あいつも俺たちが敵だった頃の仲間だった。
当時の俺たちは人々から幸せを奪い不幸にした。
そしてあいつはプリキュアとして目覚め人々の幸せを守るために戦うことになった。」
エレン「実は私もその子やあなたたちと同じだった。」
ウエスター「そうかお前も
だったらイースに会って直接聞いてみたらどうだ？
その方が早いだろう？」
エレン「ええ！」

ハミィ「じゃあ、そろそろ行こうかニャ！」

一方その頃

ここは次元の狭間
ギーア「どうした？
お前達とあろう者が何もできずに戻ってきたわけではあるまい」
リーグ「いえギーア様に折り入ってご報告すべきことが」
ギーア「報告だと？」
ハンク「実はプリキュアと名乗る奴らが我々の邪魔をするようで」
カルマ「そうそう、そいつら意外と強くってさあ」
ハンク「カルマ！ギーア様の前だぞ」
　カルマの無礼な態度に注意する
ギーア「その者共が邪魔をすると？」
リーグ「そうでございますギーア様。
奴らは伝説の戦士と名乗る者たちで我らの障害にもなりかねません」
ギーア「そうか。
ならば今の使命は一旦中止しその伝説の戦士プリキュアを始末せよ！」

3人「はっ！！」

ギーアは姿を消し3人だけになる

ハンク「しかしプリキュアの始末とは。

何としても奴らはわしらの手で始末せにゃ！」

リーグ「ふん、勝手にしていろ。

私は少し憂さ晴らしにゆく。どうもプリキュアどもに邪魔されたことが収まらなくてな」

ハンク「リーグ！！」

リーグ「大丈夫だ、プリキュアは必ず倒す。

この私の手でな！！」

瞬間移動で姿を消す

ハンク「あんにゃろ！

勝手なことばっかりしやがって！」

カルマ「もう放っとこうよ！

そんなことよりプリキュアを倒すんでしょ？」

ハンク「そうだな。

カルマよ、わしについてくるか？」

カルマ「もちろんじゃないか！」

次回へ続く

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n9887y/

スイートプリキュア　闇に蠢く次元の悪

2012年1月14日23時51分発行